

形成外科

1. 概要

2013年の手術総数は327件、診療内容は、皮膚外傷、指尖部切断、熱傷、瘢痕形成、皮膚良性腫瘍、あざ、顔面骨骨折、悪性腫瘍切除後再建、褥瘡、先天奇形などである。一部の皮膚良性腫瘍、母斑などに対してはQスイッチルビーレーザー、炭酸ガスレーザーによるレーザー治療も行っている。血管腫に有効なレーザーは当院には導入されていないが、レーザー専門医の代務医師による血管腫外来を月2回行っている。

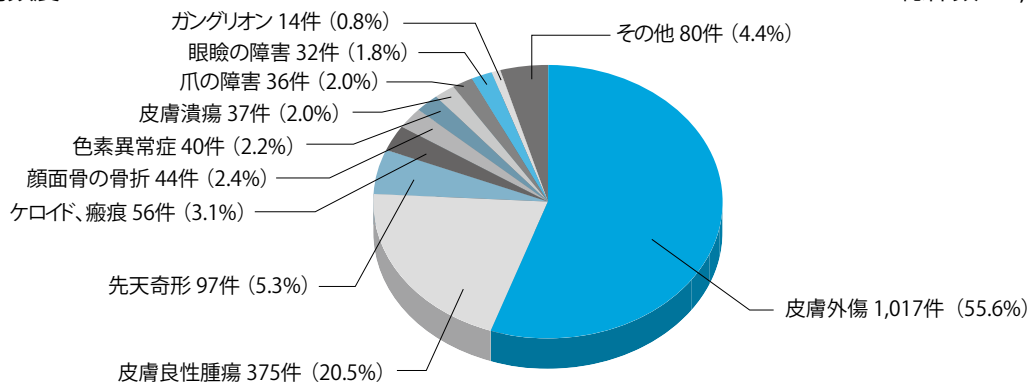
最近の傾向としては、創傷に対する湿潤療法を積極的に行うことにより、従来手術を要していた熱傷、外傷性皮膚欠損、指尖部損傷、褥瘡なども多くが保存的治療のみで治癒するようになってきており、それに伴い手術件数はやや減少している。

当院では対応できない手術症例では大学病院（名大、愛知医大）とも連携して常に最新、かつ高度な治療が提供できるように心がけている。

(部長 柏崎 喜宣)

●疾患別頻度

総件数：1,828件



形成外科臨床集計

新患者数	1,956名
入院患者数	52名
手術件数	327件
全麻手術	59件
腰麻、伝達麻酔手術	9件
局麻手術	259件
手術内容区分	
I 外傷	48件
II 先天異常	17件
III 腫瘍	182件
IV 瘢痕 ケロイド	25件
V 軟治性潰瘍	8件
VI 炎症 変性疾患	42件
VII その他	5件

学会発表（医局）

<形成外科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
①	小児遠心性脂肪萎縮症の一例	大貫 安希子	第48回中部形成外科学会学術集会	2013/7/6